

「流域計画・流域管理課題分野」(平成26年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
大規模浸水のリスク管理と流域住民の被害最小化のための総合研究 (研究期間：H26年～H27年)	佐賀大学 大串 浩一郎	B
<研究概要> <p>本研究では、人口減少や土地利用の変化、災害外力の増大、要介護者の増加など、現在と大きく変わる可能性がある将来の低平地都市域における、大規模浸水リスク管理ならびに住民の被害を最小化するための総合的な研究を実施した。都市計画、地盤工学、水工学、社会科学など異なる分野の研究者による浸水リスク評価と都市計画学的検討、河川堤防の危険度評価と築堤技術の検討、浸水予測と流域治水の適用性検討、災害時要援護者も含めた被害最小化などの研究を行った。</p>		
<事後評価コメント> <p>対象とした地域について、これまでの研究蓄積に基づき、気候変動による影響、河川堤防の危険度評価、伝統的治水技術を活用した流域治水の可能性検討など、当該研究で設定した個々の研究項目について、それぞれ大規模水害時のリスク管理や被害軽減に資する提案がなされるなど、研究の目的は概ね達成され、成果があったと言える。</p> <p>今後は、各研究項目間の総合化についてのさらなる検討や現在の傾向を引き延ばすだけではないケースも含めた人口動態や土地利用の予測・検討を実施するとともに、防災都市としての将来ビジョンに関してより具体的・定量的な提案が行われるよう、引き続き研究を行い、成果を進展させることが期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い